

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学 I	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講準備については必修であるためと全員が回答している。</p>
---	------------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>助産師として基本となる科目であり、国家試験の重要科目であるが、成績は平均83.2点であり、科目の目標は達成できた。学生の到達度自己評価は項目別に3.3～3.8であった。学習量の評価や図書館・インターネットの利用が3割と低いのは授業が実習前に終了しておく必要から詰め込みの状態であるため、学生は余裕がなく仕方ないことだと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容的には妥当である。</p>
--	--------------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>現行のカリキュラム上、この方法を継続するしかないが、中でも「学習のための情報利用」「図書館・インターネット利用」については次年度は工夫し、改善する予定である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>科目としては学生の成績も良好で目標は達成できているが、限られた時間の中でも「学習のための情報利用」「図書館・インターネット利用」を学生が積極的に行うように次年度は工夫し、改善する予定である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・助産別科は全員が資格取得を目指しており、受講動機をみると「必須科目である」が100%であることはそのことを示唆している。</p> <p>・本科目は、理論領域であり実習や専門科目をを支援する基礎科目である。実習では、医師外来および助産師外来で超音波検査を実施していることもあり、科目内容は講義のみでなく、超音波検査の演習も組み入れている。</p> <p>・病態生理や症例の実際を視覚的にもわかるよう講義資料をカラーで示したり、DVD視聴も取り入れながら学生の理解に努めている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は67.8点であった。理想レベルに達した者は2名のみであり、再試験対象者は4名であった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが専門性やレベルは高いといえる。「学習量の評価」の予習・復習時間をみると、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生はいなかったが、「1回」と答えた学生は38%であった。また、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は1名、「1回」と回答した学生は31%であった。図書館利用についても81%の学生が利用していなかった。授業準備および復習が十分なされていないといえる。疾患や治療について理解するためには継続した予習・復習が必要であり、授業への取り組み方が課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識であり妥当であると考え、一定の成績を収められるよう持続的な予習・復習を行うよう働きかける必要がある。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から知識理解・思考判断に対する達成度はやや低かった。本科目は、専門科目につながる内容として妥当であると思われるが、内容を理解するための事前の学習や復習が必要であり、学習量に関して課題がみられた。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上より、学習量として予習・復習に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価は全項目をみると平均値3.4～3.6であり、すべての学生が肯定的に捉えていたことより、授業の進め方は概ね良かったのではないかと考える。 ただ、「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、81%の学生が利用していなかったこと、予習・復習に関して1回のみ学生はそれぞれ38%、31%であったなど、授業の取り組み方について課題が残る。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は助産の実践領域(専門科目)の基盤となる基礎科目である。学生の授業評価より、予習・復習に関して課題等で時間がないという意見があったが、必須科目であり、専門科目につながる重要な科目であるため、(少しの時間でも)持続的に学習に取り組めるかが課題といえる。また、学生の自由記述の中に「毎回、生命や母性について考えさせられる講義でした」という意見があり、知識と思考が結びついている者もいた。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度から担当することになった科目であるため開講時の学生の学習準備性や動機づけについて、十分に把握できていなかった。受講動機は「必修科目である」100.0%、「資格取得に必要である」25.0%、であり、「関心のある内容である」は18.8%に過ぎなかった。さらに「単位数を確保する」が6.3%と、その受講に対する動機づけはあまり高くないことが判明した。本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられているため、まず女性がライフサイクルの中で乗り越えるべき発達課題について解説した。一方で1年後に助産師として出会う妊産婦とその家族を理解し支援するために、周産期に女性と家族が直面する問題やリスクを紹介し、その心理的プロセスについて解説することを心掛けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は78.06(±9.33)と標準的な数値を示していた。学生の自己評価はrange3.4-3.8でありこちらも標準よりやや高めの評価であり、本科目の目標を達成できたと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられており、その内容は学科のDP1、DP2、DP3に対応している。またCPとも合致した内容となっていると考えられるため、内容的に妥当性であると言える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の中では基礎科目に位置づけられており講義の形式をとっているが、限られた時間の中で親役割や母子関係・父子関係のプロセス、青年期～老年期の発達過程、周産期における女性と家族の心理など、教授するテーマは多岐にわたっているため、授業時間内に学生同士の話し合いの時間や質疑応答の時間を設けることは難しかった(授業の質の評価指標の中で、本テーマに関する対応項目の評価は3.2、3.3であった)。疑問があれば、研究室に質問に来るようにと促したが、実際に来た学生はいなかった。授業の合間に質問に来ることもなかった。「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」に関する学生の自由記述では「忙しかったので」「時間を確保できなかった」などが語られ、余裕のなさうかがえた。助産別科の先生と話し合いをしなければならないが、教授内容を厳選し、感想を書く時間を設ける事が可能かどうか検討していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>成績や学生の到達度に関する自己評価から、本科目の目標は達成できたと考えられる。質の向上については、教授内容を厳選することが可能かどうか、別科の先生と話し合いながら検討していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。「関心のある内容である」が18.8%と低いことに関しては、助産別科での開講ということもあり、専門の科目ではないので、妥当な数値と評価できる。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。</p> <p>②栄養学科同様、スライド資料を作成し配布した。資料には板書を書き写すことのできるスペース等も設けた。</p> <p>③学修準備性に関しては、約25%の学生が予習を一度もやってないと回答している、復習は70%が最低でも1回は行っていた。昨年度、助産別科の学生に対しても、予習課題や復習テストの導入を検討する必要があると考えていたが、全8回の実習を含めた講義回数では、テストを導入する時間はなく、また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間(修了後も)に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている、今後もそのようにしていく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果および実習時の課題から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が37.5%、B(優)が43.8%と多く、C(良)12.5%であり、秀および優の割合が多かった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、80%以上に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが8割を超えていることは、結果として本科目受講に対する意欲の高さのうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高だけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、25%の学生が予習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生がほとんど居なかった。特に図書館の利用に関しては、指定図書を紹介など講義でおこなっているものの、書籍を使つての課題等は出題しておらず、図書館活用も視野に入れた課題設定をしていく必要がある。ただし、助産別科生に対し、栄養学分野のみでの課題設定は厳しいことも考えられるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要がある。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、25%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、上記記載のように(目標達成状況)、他の周産期ケア科目の中で課題の組み込みも検討する必要があると考えている(例:長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等)。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は93%と高かった。ただしシラバスを参考にした学生のうち「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答している学生は少ないため、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかねばならないため、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく予定である。また、「楽しく講義を受講できた。」との意見も多く、他分野の学生でも楽しく聞けて、今後の仕事に活かすことが出来るような講義を続けたいと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
------------------------------	--



学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機をみると「必須科目である」100%、「単位数を確保する」6.7%であった。資格取得に必要な科目であることの認識は持っているが、専門職を志す者として意欲・関心をもって講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>・技術演習や講義が始まる前に復習と知識の確認のため、母性看護学の確認テストを行った。演習では事前に演習内容を記した用紙を事前に配布し、自己学習をして臨むようにした。</p> <p>・知識・技術が実習でのケアの実施に結びついていないという課題があり、実習の場面がイメージができるよう演習内容に妊婦と助産師役、第三者の視点も含め体験（ロールプレイ）し、ケアに結びつけられるよう演習を工夫した。また演習後は、体験もしくは実施することで技術の習得を図ると共に、情報や観察したことをアセスメントし、レポートするようになった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>・最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達し、その内理想的レベルに達した者は87.5%であった。</p> <p>・DP別にみると、知識・理解は92%、思考・判断は85.8%、技術・表現は62.5%、態度は92.2%の達成度であった。また、学生の到達度自己評価項目においても、平均値3.4～3.6（半分の項目が3.6）であり、概ね肯定的な評価であった。DP別の成績を見ると、思考・判断、態度に関する点数が高かった。判断するためにどのような知識や技術が必要であるかを把握し、根拠をふまえてアセスメントする能力が必要であるが、事例を用いて演習することや演習後の課題提出、包括的に捉えられたと考える。</p> <p>・学習量の評価については「授業に参加するため」「図書館から利用できる学術データベースを検索し、利用した」と回答しており、引き続き、学生が能動的に学習するよう工夫が必要であると考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須科目でもある。学習到達度の自己評価の項目では平均値3.4～3.6（半分の項目が3.6）であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DP別の成績評価をみると、知識・理解と思考・判断に関する達成度が高かった（両者ともに80%以上の達成度）。到達度自己評価も概ね肯定的な回答であった。今後も症例を用いて演習場面を工夫するなど知識・理解が思考・判断につながるよう計画すると共に、技術習得できるよう検討したい。</p> <p>③まとめ 以上より、内容に関しては妥当であると考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>・学生の自由回答の中には「実技も多かったけれど必ずデモンストレーションを実施してくれたため分かりやすかった」、「先生の指導もあったので、実習に活かしていきます」という意見があった。演習に関して、まず手技やその解説を理解度を確認しながらすすめ、実施に関しては教員が助言・指導する体制を引き続き行っていく必要があると考える。</p> <p>・学習量の評価に関して、復習を全くしなかった学生はいなかったが、「余裕がなかった」という意見や目標別評価の中で他の項目に比べ『技術・表現』に関する評価が低かった(62.5%)。事前学習や復習(練習)の時間の確保が必要であるが、他の教科との関連性も考慮し、振り返りの時間が持てるよう講義と演習の組み方の工夫が必要である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより概ね達成できていると言える。学生の自由回答の中には、授業について肯定的な意見もあったが、一方で「余裕がない」という意見もあり、課題に関しては他の科目の授業の状況も加味し、復習する時間を確保することも検討する必要がある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を実施した。講義に関しては、事前課題を提示し、講義内容の理解を促した。机上の講義では産褥期の生理・褥婦の変化・産褥経過・支援方法について解説し、教科書を中心に進めた。その上で、技術演習では看護学科の技術演習に参加する機会をもうけたり、学生間で保健指導を実施することで、臨床実習へもつなげられることを意図して講義内容を組み立てて取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は76点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。DP別にみると、知識理解に関しては70%、思考判断に関しては80%、態度に関しては82%で、技能表現に関しては75%であった。知識理解に関しては机上講義をふまえて演習課題で理解を深められるよう意図していたが、他の課題との重複もあり不明な点に取り組む時間の確保が難しかったともあったと考える。それでも、最終的には、周産期を通じた知識をふまえて演習に取り組めたことや、看護学生の演習を通して保健指導の方法をイメージしたり、保健指導案を作成し、実践したことが、臨床実習にむけた褥婦支援の理解および準備につながっていったと考える。さらに、他の科目同様に本科目が臨床実習にはおいては、かなり重きを置く科目であることもあり、学生たちも計画的に自己学習を行うなどして意欲的に取り組んでおり、そのような姿勢も目標達成につながったと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は3.5点以上であった。また、DPにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性があったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、毎回、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めているが、予習を十分行うことで、その知識を演習で生かすことができ体験的にも理解の深まりに関連していると考えられる。 しかし、特に課題が集中する期間に実施される講義であるため、課題に関しては余裕がなかったという意見もあったことから、課題の量や提示する時期については今後の課題であると考えられる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生ほぼ全員が目標に達することができていた。しかし、到達度自己評価や授業の質においては、「かなりそうだと思う」という回答は数名であった。これは、図書館や教科書以外の資料を活用できていなかったという意見などから、短期間で集中的に行われる講義であるため、学習時間の確保が難しかったことが要因であったと思われる。学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し、広い視野で思考判断が可能となるように、講義のなかでの学習時間の確保についての調整も必要であると考えられる。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機をみると「必須科目である」100%であり、国家試験に関わる分野であり、資格取得には必要な科目という認識である。</p> <p>・技術演習(医師が担当)では、全学生が経験できるよう物品の準備や配置、適宜指導が受けられるよう配慮している。</p> <p>・実習を考慮し、知識・技術がケアの実施に結びつくようケアに関わる内容を講義に付け加えた。また、実習に活かせるよう実習で必須のテーマを抽出・提示し、レポート作成をするようにした。</p> <p>・講義資料は理解しやすいようカラーで配布するなど、資料作成の工夫を継続して行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>最終的な成績の平均点は71.6点であり、再試対象者は1名であった。標準レベルに達した学生は10名、理想レベルに達した学生は2名であった。科目が「周産期のハイリスク」ということで、疾患についての講義がほとんどであり、正常からの逸脱(異常)について説明・判断ができることを目標としているため、講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学習する助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ(妊娠期、分娩期、産褥期・新生児・乳幼児)」と関連づけて学習することが必要である。</p> <p>・DPについては、知識理解・思考判断は、72%、技能表現は69%の達成度であった。</p> <p>・学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は100%、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は100%であり、予習・復習を行わなかった学生は0名であった。また、予習・復習を「1回」のみと回答した学生が3割いた。正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには予習・復習が必要であるが、このことは目標達成に反映されると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では思考・判断に関する平均値(3.6)が他の項目より高い。学生も一定の成績を収めており、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標成績評価</p> <p>からみでの内容的妥当性</p> <p>から知識理解・思考判断に対する達成度は標準レベルであった。図書館利用について、「図書・雑誌の利用」について69%学生が利用していなかった。本科目は、正常逸脱に関する知識、思考・判断を求められ、専門性の高い内容であるため、予習・復習について計画的に学習に取り組むことが求められる。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上より、到達度自己評価は思考・判断についての平均値が最も高く、技能・表現に関しては標準レベルであったが、内容に関しては妥当であると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>合併症をもつ対象のケアについては事例を用いるなど工夫したが、今後も実践的な判断ができるよう症例の選択と内容の工夫が必要である。また、正常領域の科目の授業も並行して行っているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。授業の質評価において「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」について平均が最も低かった(3.0)。3人の講師で授業が展開されているため、シラバスの内容および学習計画について詳細に説明し、科目の内容理解に努める必要がある。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は助産の実践領域である専門科目である。授業過程では、ケアに関しては事例を紹介し、課題を通して学習内容を再度まとめるようにした。また、正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量の取り組み方は常に必要かと思われる。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性の健康支援論	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、女性のライフサイクル各期における健康問題とその支援について学び、女性の支援者としての助産師の役割を学ぶことを目的としている。、周産期・乳幼児期・学童期を除くすべての女性に対する助産師として役割を考える機会となることを意図し、専門科目ではあるが学期の初めに講義を組んだ。ライフサイクルにおける特徴と支援について講義をすすめ、学びを深めることを意図しディスカッションの時間を設けた。そのため、評価についてもディスカッションやレポートを重視することにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	どちらともいえない		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は73点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。さらに、4名が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。</p> <p>DP別にみると、知識理解に関しては69%、関心意欲に関しては90%であった。</p> <p>知識理解が70%以下であったことは、学校生活に慣れる間もなく、課題に追われ自己学習を行う時間を確保できずにいた学生がの割合が多かったと考える。しかし、時間を工夫し、図書館やインターネットも活用した自己調査も踏まえて助産師の役割についても自己の意見が述べられており、全ての女性に対する助産師の役割を考える機会となり目標達成につながったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であり、健やかな女性のライフサイクル支援を主とする科目の一つである。ライフサイクル各期の女性に関する知識理解はもちろん思考判断をふまえたうえで、関心を持って自らの意見をまとめ他者に発信し、より具体的な助産師の役割を見出していくためには必須である。受講動機は「必須科目である」「資格取得科目である」という理由から、まじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価や授業の質においては平均点は4.0点弱であったことから、内容的には妥当性があつたと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>周産期を学ぶうえで、ライフサイクルにおける女性の特徴や看護を理解することは重要であることから講義の時期や内容は適切であったと考える。しかし、入学直後より短期間で集中的に行われたため、学生からは時間の余裕がなかったという意見がでていた。今後は、教科書以外の参考書や文献を余裕をもって活用できるよう、課題の提出時期や学習時間の確保については検討事項であると考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>到達度自己評価では、すべての項目においてほぼ全員が「そうだと思う」と回答しており、目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であったが、学生負担なく課題に取り組み広い視野をもち助産師としての役割を理解できるように、検討していきたい。</p>
------------------------------	---



リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合看護学	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機を見てみると、「単位数を確保する」、「関心のある内容である」、「教員にすすめられた」が33.3%であった。本科目は、選択科目であり、看護学領域を示す科目名になっているが、今後の実習において再学習する必要性を説明し留意した。</p> <p>・授業は看護に関する基礎的知識と方法とし、助産学実習の基礎として習得すべき内容とした。その際、看護理論、助産領域に必要なコミュニケーション力、観察力を身につけるために演習も取り入れ、今後の助産学実習に活かせるよう計画した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であったが、16名の学生全員が受講した。</p> <p>・最終的な成績の平均値は80.1点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達し、その内理想的レベルに達した者は半分の50%であった。</p> <p>・目標別にみると、知識・理解は91.6%、関心・意欲は72.4%の達成度であった。また、学生の到達度自己評価項目は、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均4.0で最も高くなっていることから、入学前(看護学生時)に既習している内容であるが、再学習することで新たに得られた学びがあり、本科目の目標として一定の評価ができるかと考える。また、学生の自由回答の中にも「実技が多く、自分の身をもって体験することができた」とあり、達成感が得られたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は助産の実践領域に位置する支援科目であり、選択科目でもある。支援科目は、専門科目の幅広い理解につなげるための科目である。受講動機(学生の自由記述含む)や学習到達度の自己評価などより主体的な回答も得られたこと、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えた。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>目標別にみると、知識・理解に関する達成度が高かった(50%が理想レベル)。また、到達度自己評価においても知識・理解、関心・意欲の項目に関して概ね肯定的な回答であった。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上より、内容に関しては妥当であると考えた。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価として、授業の課題以外に学習に取り組んでいないと回答した学生は100%であった。理由として「課題で精一杯だった」、「忙しかった」、「課題で充分だった」という意見であった。限られた期間の中で、課題レポート作成および発表が組み込まれていたためかと考えるが、他の教科との関連性や進度も考慮し、学習の時間がもてるように授業計画の工夫が必要と考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中の支援科目であり選択科目である。専門科目の理解を支援する科目である。専門科目である「助産過程演習」や「助産学実習」を学ぶにあたって、既習学習である看護理論やコミュニケーション技術・観察技術についての知識や学習を再確認することは重要である。授業成績や授業評価アンケートより科目の本質は学べていると考えるが、学生の自由記述より「忙しい」「他の授業の予習で時間が確保できなかった」という回答があり、他の科目の授業の順序性、進度も加味し、授業計画を工夫する必要もある。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は必修科目であり、助産別科の学生すべてが受講する。そのため、受講動機を「必修科目である」と答えていた学生が100%であった。妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており(特に海外において)、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。</p> <p>昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は81.6(±5.5)点であった。成績分布別にみると、90点以上が13%、89～80点が50%、79～70点が37%であった。全員が標準的レベルに達しており、63%の学生が理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「わりにそうだと思う」が50%、「まあまあそうだと思う」が50%とすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.5)。</p> <p>「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が6%、「わりにそうだと思う」が44～50%、「まあまあそうだと思う」が50%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.5～3.6)。</p> <p>その他、「思考・判断(DP2)」、「意欲・関心(DP3)」、「技能・表現(DP5)」、「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値は3.3～3.5であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>今回は、該当するDPとしては、「知識・理解(DP1)」のみとなっていたが、この授業では妊婦体験の中で様々なスポーツやマタニティビクスを経験させており、「技能・表現(DP5)」もまた含める必要がある。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が3.4～3.7であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。しかしながら、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていない学生は約19%であり、昨年度(約23%)より少なくなった。このことから、今年度は学生の学習意欲を少しは高めることができたと考える 一方、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は約63%であった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。</p>
------------------------------	--